

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271100442		
法人名	(株)アミーゴ島根		
事業所名	グループホームゆりさわ 南ユニット		
所在地	島根県松江市宍道町佐々布2130-1		
自己評価作成日	令和1年8月29日	評価結果市町村受理日	令和元年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号
訪問調査日	令和元年10月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田畑や山で囲まれ、敷地内には果樹を植樹し、中庭にも植え木があり、身近に自然が感じられるように、季節感を大事にしている。平成15年4月に開所し10年目を迎えているが、木のぬくもりが感じられる家庭的な雰囲気を持している。
 ゆりさわに因んで「ゆったりと穏やかに」「利用者さんのペースに合わせて」「さりげない気配り」「和気あいあいとした明るい雰囲気」をモットーに日々研鑽を積んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然環境に恵まれた静かな場所に位置し、隣に小規模を含めた有料老人ホームを併設している。開所からの年数も経過し地域の中の施設として、ボランティア交流も盛んで、近隣住民参加で避難訓練も行われている。2つのユニット共に管理者を中心にまとまり、毎日午前中の時間を利用して、レクリエーションが実施されている。職員が個々に考得得意分野を生かした形で行われており、手作業や歌、軽運動等幅広く取り組まれている。今後に於いても様々な研修に参加することで、職員個々にレベルアップすることで、個別支援に充実に取り組んでいただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の目に付きやすい場所に掲示されており、いつでも再確認できる。	開所当初からの理念を継続。年に2回は社長より理念についての話があり、毎月の会議の場でも話をするようにしている。朝礼を毎日2ユニット合同で行う事で、全体把握ができると共に職員の意識統一から理念の共有に繋がってきている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや季節行事等、近所の方が参加してくださる。顔なじみの関係であり日々挨拶を交し合っている。	自治会に加入し地域の一員として溝掃除や草刈り等の奉仕作業に参加している。専門学校の実習や、職場体験の受け入れ等積極的に行っている。地域から神楽や安来節、音楽関係のボランティアも多くあり交流は盛んに行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事等の地域交流を通して認知症の方の理解や支援方法など伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に行なっており、意見等をサービスに活かすようにしている。	家族代表に地域からは民生委員、行政からは担当課か、包括からかのどちらかの参加で定期に開催。利用者の状況に行事、訓練や研修報告を行い、意見交換に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会議に参加して頂いたり、必要時には相談等をしている。	運営推進会議には毎回参加があり、包括とは空き情報を伝えたり、入所の問い合わせを受けるなどの関係が築けている。生活保護担当職員は年2回訪問があり、普段も受診の様子を伝えるなど、状況報告を密に協力関係が築けるよう取り組んでいる。。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回研修会や話し合いを行なっている。その膳立つ研修などにより理解を深めている。夜間の防犯の為施錠をしている。	身体拘束をしないケアに取り組んでおり、帰宅願望がある場合も一緒に歩き落ちつけるようにしている。虐待を含めて外部研修に参加したり、内部でも様々な事例を共有することで意識するようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会の参加、その伝達研修などにより理解に務め気付いた事等を話し合っている。毎日のケアの中で見過ごされていないか意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会参加などで理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、必要な書類を基に納得いくよう説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会開催時には気軽に話し合えるよう関係づくりに務めている。又、意見箱を設置している。	年1回家族会を開催している。家族関係者の参加で食事会をメインに、毎年感染症の予防などテーマを考えて取り組んでいる。月に1回は、普段の生活様子を伝える手紙を担当職員が書き、写真と合わせて送っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個人面談、必要時には話し合いの場を設け対応し、個々の意見を参考に反映するようにしている。	レベルアップのため毎年4月には今年度取り組む個人目標を提出しており、管理者はそれに関連して必要と認めた場合には、面談を実施して意見を求めている。毎月の会議の場でも呼びかけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人1人の生活環境、家族構成など事業にあわせ勤務を組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の目標を掲げ、努力できるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会、実道ワーキング会等の参加を通じて情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の表情や言動にも目を傾けながら、気持ちに寄り添い安心して生活できるよう務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望には何でも相談できるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの支援が適切かどうか本人の必要としている居場所なのか等見極めるよう務めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中でも、お互いが助け合って集団生活を送っていることを感謝し合える関係が出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回のゆりさわ便りにて近況を報告している。面会時にはゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	機会のあるごとに、可能な限り馴染みの人と交流できるよう支援している。	地域に目を向けた新たな試みとして、地区の公民館が交流目的で開放している日に、お茶をしに出かけている。今までの関係継続の為に、行きつけの美容院にも職員が付添いで行くよにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに良い関係が出来る様、必要に応じて職員が関わっている。レクレーション時には、出来ない人が孤立しないように関わり合い、孤立を感じないよう務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからも必要に応じて相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報を共有し本人と接する事で把握に努めている。又、月に一度のカンファレンスで支援の見直しを行い、ご本人の希望に添えるようにしている。	家族からの聞き取りを主にしているが、家族でもわからないことがあったり、昔のことで家族も知らないことや、後で段々と伝わることも多くあり、その都度職員間で共有するようにしている。	個々の残存能力を利用することで、個別援助の充実に取り組んでいただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を共有して支援につなげている。日々のケアの中でも情報を引き出すような声かけをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録に細かい記録を残し、業務日誌、業務引継ぎにより、得た情報と本人の様子を見ることで把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の気付いた事等を共有のノートに記録しておき、カンファレンス等で検討し支援の見直しに努めている。	遠方や仕事等で家族参加は少ないが、カンファレンスは2か月に1回は本人参加で行っている。定期的にモニタリングを行い、参加が難しい家族関係者には電話等で意見を聞き、計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	良かった事、改善すべき事等を話し合い検討するようにしている。同時に経過記録のアセスメント欄への記入もしているがもう少し活用できると思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の方一人ひとりに合わせた支援や求めておられる事への実現に可能な限り取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月2回3B体操の先生に来ていただき体操をしている。又、実習生の受け入れも行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望に添いながら、かかりつけ医と連携し支援している。	町内のかかりつけ医に1か月か2か月に1回職員が付添受診している。日々の様子を伝えることで指示を得ている。休日や夜間等にも指示が得られる支援体制が確立している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の方一人ひとりの情報が、確実に伝えられるようにしている。また、気づきを相談し状況に合った支援が出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者や看護師が医療機関との情報交換を行い、共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては、同意書を頂いている。状況の変化があった時は、その都度情報を共有し支援を行なっている。	かかりつけ医との関係は良好で、今までも何件もの看取りを経験している。現在は介護度が回復傾向にある為対象者はないが、本人、家族関係者の希望があれば今後に於いても、話し合いの機会を持ちながら、看取りに取り組む意向を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成し周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を実施、的確な行動などできるようにしている。地域の方にも参加、協力してもらっている。	海、川からは遠く水害等にはあいにくい為、火災や土砂崩れを想定して定期的に避難訓練を実施している。隣の施設との合同訓練には、地域の高齢者も消化訓練や避難した利用者の見守りで参加してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日のケアの中で馴れ馴れしくならないように心掛けている。又、ご本人にとってより良い対応を心掛けている。	施設内で接遇研修を行ったり、言葉づかいや接し方に関しては、職員アンケートを行い振り返りの機会としている。不適切と思われる場面では注意したり、会議の場では全体のこととして注意を促すようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	カンファレンスに参加されたり、日々のケアの中でご本人の思いが聞きだせるよう声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせて生活できるように務めている。又、一人ひとりの方が求めている事を見極める努力をし、それに添うよう務めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月2回にハッピー号を利用している。出来る限り好みの服を選んで着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ物の匂いがしてきたら献立について話をしてみたり、食事中も様子を見ながら話題を提供している。又、食べやすくする工夫を個々にしている。	主に調理を担当する職員を配置し、2つのユニットで分けて調理している。野菜の皮むき等の下準備や調理自体ができる人は少なくなったが下膳は手伝う方がいる。臭いや調理の際の音など五感の刺激に繋がるよう考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食食事量をチェックしている。水分摂取量が少ない時はゼリーなどで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さを説明し、面倒がられる方にも納得して口腔ケアをして頂けるよう声かけし必要に応じて手伝うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者1人1人に合ったタイミングで声かけしたり、介助を行なっている。何か変化があった時はその都度対応している。	有料のオムツ研修に参加。介護度5の方は定期交換しているが、個々に合わせて紙パンツや布パンツを使用している。介護度が回復傾向にあるため見守りを主に、声がけしたり必要に合わせて介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録により個々の状態に合わせて飲食物、薬等の利用、調整によりコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の方一人ひとりにあったタイミングで入浴して頂いている。又、拒否されがちな方への対応も工夫している。	家庭浴槽を使用しており、介護度の高い方の場合は2人介助も行っている。湯船に浸かりたがらない方もあるが、対応を考え2日に1回は入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全体のペースに引きこもうとせず、その方の状況に合わせて支援している。又、午後の休息は、室温調整や環境整備に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の方一人一人の内服方法が違うため薬を扱う時は十分に気をつけている。又、薬のファイルを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が前向きな気持ちになって頂ける事を見つけ、自分で出来る事は取り組めるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出かける事が億劫な方もおられるが、天気の良い日には散歩に出掛けられるように支援している。	花見や紅葉狩り等の外出行事は計画的に実施しているが、普段は受診時が個々の外出の機会になっている。施設前を散歩したり、隣の施設の行事の際の行き来も多くある。できるだけ外気を感じられる機会を増やすようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で預かり希望に応じて使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方に連絡があった時は、取次いで対応している。又、家族等への電話の取次ぎもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物、季節の花、壁に季節に合った作品を飾るなど心地よい環境づくりに務めている。	2つのユニットの真ん中には趣の異なった中庭があり、ダイルームから眺められるようになっている。季節感もあり適度な明るさもある。幹線道路から少し離れているため静か。ダイルームには畳の部屋があり、洗濯物をたたんだり横になったり、縁側のような使い方をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間でも一人になれる場所がある。和室、ソファなど		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、ご自宅で使用していたものをもって来て頂いている。又、その方独自の雰囲気作りを心掛けている。	タンスやテレビ、衣装ケース、服かけ等家で使っていた物を持ち込まれている。得意だった習字の賞状をたくさん壁に貼ったり、和太鼓を飾ったりと、懐かしく思い出せるよう部屋づくりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の方がその力に応じて生活して頂き、安全に前向きに過ごして頂けるよう、環境整備に努め支援している。		